

かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

Vol. **68**

2016 AUTUMN

暮らしが息づく
しまなみの海を守る

特集

第六管区海上保安本部
尾道海上保安部

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

かいほ ジャーナル

C O N T E N T S



Vol. **68**

2016 AUTUMN

PHOTO GRAVURE

- 1 尖閣諸島周辺海域における中国公船、漁船に毅然と対処
- 1 練習船「こじま」世界一周遠洋航海終え無事帰港
- 2 「海の日」行事での海上保安政策課程第1期生報告会及び巡視船「いず」一般公開
- 2 北太平洋海上保安フォーラム 多目的訓練に巡視船「えちご」派遣
- 3 海上保安庁長官交代式 第44代海上保安庁長官就任
- 3 4年ぶり15回目の開催 日韓長官級会合実施

[特集]

第六管区海上保安本部

- 4 尾道海上保安部

暮らしが息づく

しまなみの海を守る

TOPICS

- 10 尾道 エトセトラ ~特集では伝えきれなかった尾道をここで~

- 12 **NEWSFLASH** ニュースフラッシュ

裏表紙

INFORMATION

危険!ながらスマホ

尖閣諸島周辺海域における中国公船、漁船に毅然と対処



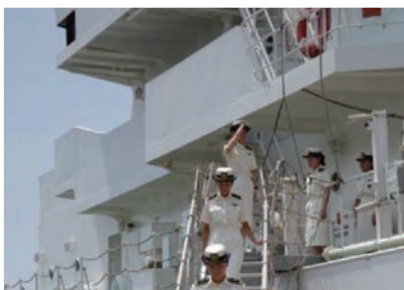
8月5日、中国漁船に続いて中国公船が尖閣諸島周辺の領海に侵入しました。その後、最大15隻という多数の中国公船が同じ海域に集結し、中国漁船に続いて領海侵入を繰り返すといった初めての事象が確認されました。

海上保安庁では、中国公船に対し、我が国領海に侵入しないよう警告を行うとともに、外国漁船に対しても領海で操業しないよう警告し、

退去させました。

また、これらの中国公船と漁船の活動状況及び海上保安庁の対応状況の動画等をホームページで公開しました。

引き続き、我が国の領土・領海を断固として守りぬくとの方針の下、関係機関と緊密に連携し、冷静かつ毅然とした対応を行っております。



8月4日、練習船「こじま」は、専攻科実習生47名、国際航海実習課程研修生2名、乗組員43名を乗せ、多数の教職員及び家族が出迎える中、世界一周の遠洋航海を終え、無事帰港しました。

今回の航海では、初めて取材クルーが同乗して4月28日に呉を出港した後、サンフランシスコ、

ボルチモア、リボルノ、シンガポール、ダナンの4ヶ国5都市に寄港し、総日数99日間、総航程約25,000海里(約46,300キロ)に及びました。実習生は皆、各寄港地にて各国の海上保安事情を学び、施設見学やレセプション等の交流を通じて国際感覚を磨き、また、長い航海の中でたくましく、大きく成長して帰港しました。

練習船「こじま」世界一周遠洋航海終え無事帰港

「海の日」行事での海上保安政策課程第1期
生報告会及び巡視船「いず」一般公開



7月18日、海をテーマに100を超えるイベントを全国各地で展開する「海の日」行事の一環として、東京晴海ふ頭に停泊中の巡視船「いず」において、日本やアジアの海上保安機関から参加している海上保安政策課程第1期生10

名による国土交通大臣及び日本財団笹川会長等に対する報告が行われました。合わせて行われた巡視船「いず」の一般公開に、約800人が訪れました。

北太平洋海上保安フォーラム
多目的訓練に巡視船「えちご」派遣



8月2日～6日まで、巡視船「えちご」は、ロシア連邦ウラジオストクにて実施された、北太平洋海上保安フォーラム多目的訓練に参加しました。第9回目となる今回の訓練にはロシア、中国、韓国、日本の海上保安機関が巡視船を派遣し、初となるテロ容疑船の捕捉・制圧訓練などを行い、各機関の対処手法について知見の共有が図られました。



海上保安庁長官交代式 第44代海上保安庁長官就任



中島新海上保安庁長官



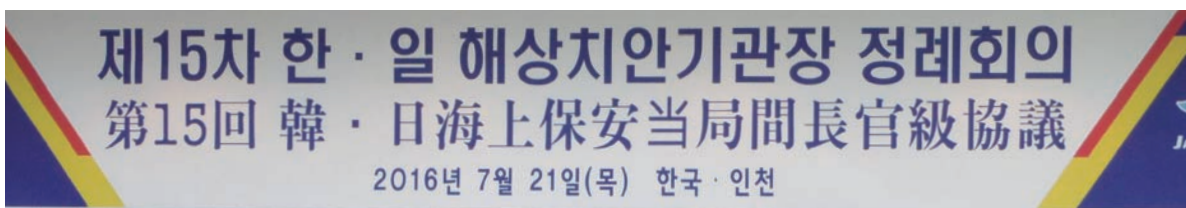
佐藤前海上保安庁長官

6月21日、霞ヶ関（中央合同庁舎3号館）において、海上保安庁長官交代式が執り行われ、佐藤雄二前長官から中島敏新長官へ庁旗が引き

継がれました。
会場には、職員200名が参列し、前・新長官から職員に対して挨拶が行われました。



4年ぶり15回目の開催 日韓長官級会合実施



7月21日、韓国仁川において、4年ぶり15回目の日韓海上保安当局間長官級協議を開催しました。中島敏海上保安庁長官と洪益泰（ホン・イクテ）韓国海洋警備安全本部長は、両機関による連携・協力を強化していくことに合意しました。

暮らしが息づく しまなみの海を守る

第六管区海上保安本部 尾道海上保安部

天然の良港に恵まれ、古くからの海上交通の拠点として栄えてきた尾道
一方で島々を縫うように延びる航路は難所としても知られてきた
尾道海上保安部は、人々の暮らしと切り離すことのできない瀬戸内の海の安全を守っている

取材・文／中島 敦（オンサイト）





瀬戸内海西部、広島県から愛媛県に向かつて海を塞ぐように島々が広がる芸予諸島は、狭い海峡と強い潮の流れによって、古くから交通の難所として知られてきた。1999年に島々を繋ぐ橋によって尾道市と今治市を結ぶ西瀬戸自動車道（通称しまなみ海道）が整備され、両県の間は陸路で行き来できるようになったが、漁船を始めとする船舶の航行は多く、また手軽に島と島（もしくは本土）を結ぶカーフェリーや渡船が依然として広く親しまれている。

尾道海上保安部は総員35名。23メートル



「尾道は、地元の一連の行事にも我々が組み込まれているなど、地域との繋がりが非常に強い土地柄です」と語る尾道海上保安部の高橋部長。「円滑な業務運営を心掛け、いかにして保安部の総合力を高めていくかを常に意識しています」

尾道海上保安部の目の前には、尾道市の大きな特徴でもある尾道水道が広がる。対岸に浮かぶ向島との距離はわずか200〜300メートルほどと非常に狭く、あたかも「海の川」といった様相だ。向島と迂回路として活用されてきた。

ル型巡視艇の「はやぎり」、20メートル型巡視艇の「はざくら」と「からたち」という3隻の巡視艇を要し、しまなみ海道の起点となる尾道市を中心に東は福山市、西は三原市の沿岸主要3市と、内陸部の3市2町を管轄する。担任水域は今治海上保安部と共管水域を分担し、広島と愛媛の県境を跨いだ複雑な海域を受け持っている。また、しまなみ海道の南端、大島と今治市の間を抜ける来島海峡は日本三大強潮流の一つに挙げられるほど潮の流れが強い難所だが、尾道の担任水域内にある向島と因島間を抜ける布刈瀬戸から三原瀬戸は、古くからこの来島海峡の迂回路として活用されてきた。





因島大橋をくぐり布刈瀬戸を哨戒中の巡視艇はやざり。

の間には3航路ある渡船が絶えず行き交っており、文字どおり日常の足として人々の生活を支えている。尾道水道だけではない。どの島と島も互いに指呼の距離に連なっており、海は人々の生活と密接に結びついている。広島県における小型船舶登録隻数は約2万件と国内有数であり、その中でも尾道海上保安部が管轄する区域内の小型船舶登録隻数は約7千300隻と、約37%を占めている。当然、プレジャーボートを所有する人も多く、花火大会では海上から花火を楽しむと集まるプレジャーボートが尾道水道を埋め尽くす。一方で管内には約30もの造船所があり、また尾道系崎港区には木材輸入基地が、三原港区には三菱重工業や帝人、といった大企業が立地していることから海上の物流も盛んだ。狭い水道に多数の大型船舶と小型船舶が日常的に交差する。それが尾道の日常風景なのだ。

このように狭い海上を多くの船が行き来するこの地域での業務について、尾道海上保安部を統括する高橋敏男部長は、「多島海域と呼ばれるこのあたりは潮の流れが速く浅瀬も多い。必然的に衝突や乗揚げといった事故が発生しやすくなりますから、航行の安全に力を入れなければなりません」と説明。また保安部全体の力を発揮するために「円滑な情報連携」の必要性を挙げ、陸上各課や巡視艇のスムーズな意思疎通の重要性を強調した。

求められる航行の安全確保

尾道水道を巡視艇で哨戒すると、ひっきり



「転勤の多い仕事ですが、地元の人に受け入れられ、支えられてこそ我々は仕事ができる実感しています。だからこそ安心という形で地元還元したい」と語る藤中警備救難課長。

りなしに行き交う渡船が前方を横切り、間近を大型船がすれ違っていく。強い潮流や場所によっては4メートル近くにもなる潮位差、そこに集まる大小様々な船乗組員は周囲の状況に細心の注意を払って操船し哨戒を行なう。双眼鏡に捉えたあの船は動いているのか停泊しているのか？ 船上に漁業者はいるか、誰かが転落した形跡はないか？ いつもと違う様子はないか？ 浮遊物は航行を妨げるような危険物ではないか？ 小さな浮遊物でも見逃すことなく、安全であること、障害にならないことをひとつひとつ確認していく。

こういった念入りの確認作業の必要性について、「丁寧な事実確認を怠らないこと。この徹底が事件の早期発見や事故を未然に防ぐことに繋がります」と警備

救難課を束ねる藤中哲哉課長は強調する。時には巻かれた布団や冷蔵庫が海上に浮遊していることもあるが、些細な浮遊物についても手を抜くことなく中まで確認し、航路障害物であれば引き上げるという。

「現場での確認を怠ってしまうと、後になって時間を戻すことはできません。」

丁寧な事実確認が潜在的な事案の掘り起こしに繋がることもありますから、陸上職員・巡視艇にはたとえ手間がかかっても確認を怠らぬよう徹底しています。こういった地道な活動を続けることが、地域の皆さんが安心して暮らすことに繋がるのだと考えています」と藤中課長。

また、地域の警察や消防との連携も欠かせないとも。浅瀬が多い地域だけに小型の巡視艇でも入ることができない場所が少なからず存在するため、「例えば消防署が手漕ぎボートで初動対応した後に我々が引継ぎ若しくは確認に向かう、といったこともあります。また離島の急患搬送でも、消防の救急船に代わって我々が出動することもあります。尾道に限った話ではありませんが、地域の関係機関との連携は欠かせません」と付け加えた。

慣れ、慢心による事故を減らせ

大小織り交ぜ航行する船舶の数が多い上に、複雑な潮の流れや浅瀬といった難所もあるため、操船には細心の注意が必要となり、それだけに人々は注意して操船するため、船の多さがそのまま事故の

左右に岸壁が迫る狭い水道、間近に迫る島々 海は、人々の暮らしに直結している



狭い尾道水道では巡視艇の操船にも細心の注意が求められる。船の動きや海上の浮遊物の様子を仔細に観察し小型漁船やプレジャーボートの事故を未然に防いでいる。また、しまなみ海道の四国側にある来島海峡の哨戒にも尾道海上保安部の巡視艇が恒常的に派遣されている。

多さに繋がるわけではないという。ただし、逆に言えば慣れや過信といった不注意による事故を未然に防ぐことが課題とも言え、尾道海上保安部は小型船舶操縦免許更新等の講習では職員が受講者に対して直接、海難防止啓発等の指導を行ない、また弓削商船高等専門学校の教授4名を海上安全指導員として指名することで指導の輪を広げるなど、積極的に安全への啓発活動を実施している。

一方で航行援助業務としては、担当水域内にAIS送受信局を含む98基の航路標識等を設置し、航路付近の障害物を明示している。また通航船舶の障害となる浅瀬や海上構造物、海面漁具等を明示する標識として簡易標識が多数設置。特に冬季は、数多く設置される海苔養殖筏の区画を示す簡易標識が設置されている。設置者はインターネッツを使って手続きすることができ、保安部ではこれらの情報を効率的に処理し、把握に努めている。

このように、時代に合わせた技術や手法を取り入れる一方で、尾道海上保安部管内には明治時代に建設された古い灯台も多い。これは明治20年代後半に瀬戸内海の海上交通量が急増した際に、来島海峡航路に代わる航路として百貫島から三原瀬戸を経て大三島に至る航路が開拓されたことに端を発す。明治27年、この区間に布刈瀬戸八灯台が建造された。尾道管内にはこのうち4つ、高根島灯台、小佐木島灯台、大浜崎灯台、そして百貫島灯台があり、これらの維持管理も重要な



地域のイベントに参加したり地元の海洋少年団との交流、地元小学校との海岸清掃活動など、地域と結びついた活動を通じて安全への啓蒙活動を行う。また離島での防災訓練では広島航空基地のヘリコプターと連携して訓練を実施。

役割のひとつ。場所によっては海沿いの荒れた山道を辿ってアプローチし、灯台そのものももちろんのこと、視認性を損なう恐れのある周辺の木々にも目を配って必要なメンテナンスを行わない、航行する船に灯台の灯りを届けているのだ。

古くから海と共に栄え、「海とともに発展する海事都市」を標榜する尾道市は昨年、「尾道水道が紡いだ中世からの箱

庭的都市」として日本遺産に認定された。さらに今年も「日本最大の海賊の本拠地…芸予諸島」が、今治市と共同で日本遺産に認定されている。しまなみ海道には国内はもとより世界中から多くのサイクリストが訪れ、美しい島々を巡る自転車の旅を楽しんでいる。観光客にとっても、そこに暮らす人々にとっても、尾道の日常は海と切り離すことができないものだ。海と人々の生活と共にあるもの。だからこそ安全でなければならぬ。尾道海上保安部は美しいしまなみの暮らしを守り続けている。



向島と因島間の布刈瀬戸に立つ大浜崎灯台は、明治27年5月から航行する船に向けて灯台の明かりを灯し続けている。灯台の隣には3つの塔が特徴的な建物がある。これは旧大浜崎船舶通航潮流信号所で、現在は灯台記念館となっている。



尾道の海を守る 海上保安官

MESSAGE
from
ONOMICHI

「検視と鑑識の道を極めたい」

巡視艇からたち 航海士補 内山 勇 (26歳)

以前勤務していた香川県の坂出海上保安署では大きな航路を抱えていましたが、尾道は島嶼部ということもあって狭いところが多く航路の幅も狭いので、最初は操船に必要以上に気を使いました。坂出では大型船の衝突などもありましたが、こちらでは小型船の浅瀬の乗揚げなど、小型船の事故が多いと感じています。

広島市の出身ですが、小学生の時に友人が海水浴で亡くなるという経験をしました。その時、海上保安庁の人が来たのを目にしたのが、この職業を知ったきっかけです。少しでも友人のような事故を減らしたい、助けたいという思いから海上保安庁を目指すようになりました。今は検視を担当する捜査員として日々の業務にあたっています。東日本大震災では多くの方が亡くなりましたが、未だに見つからず家族の元に帰ることができないでいる方もいます。そんな状況で自分が何ができるのかを考えた時、身元をきちんと割り出すためにも検視の重要性を痛感し、検視研修を受けたのがきっかけです。やはり身元不明のまま埋葬

されるのは非常に気の毒に感じます。第六管区でも南海トラフ地震が予想されていますが、実際に大きな被害が発生した際には、何とかご家族の元に戻りたいという気持ちがあり、そのために自分にできることは何かを考えて検視の道を選びました。

広島に限らず香川もそうですが、第六管区は漁師さんが多いところで、取締まりでは時に罵声を浴びせられることもあります。でも、彼らが海難に遭遇し救助した時には、「ありがとう」の一言が返ってくることもあり、そういう時にはこの仕事に就いて良かったと思います。最近は増えてきていますが、検視を担当する捜査員の数はまだまだ各部署に1名、2名というのがほとんどです。自分も成長している途中ではありますが、きちんとご遺体と向かい合い、どのような状況で亡くなったのかをしっかりと捜査できなければいけません。今は上級鑑識も取得して鑑識を担当する捜査員にもなりましたので、検視と鑑識の道を極めたいと思います。

「人の命を助けたいと願い海上保安官に」

巡視艇はやぎり 航海士補 中島 純 (21歳)

人命救助に関わりたいという気持ちで海上保安官への道を選びました。警察や消防といった道もありましたが、海上保安庁では警察、消防どちらの業務も行いますので、人命救助はもちろんのことながら、治安の維持といった事故を未然に防ぐことなど多岐に渡った業務を行うことができることから海上保安庁に入庁したいと思うようになりました。

現場に配属されてすぐに現場に取り残された人を救助しました。釣り人だったのですが、潮が満ちて孤立し動けないといった内容の事案でした。現場に行くと本当

に足場にも波が来ており、救命胴衣は着用していましたが、どうにも身動き取れない状態でした。船で接近して船首からロープやボースンチェアを使って救助しました。訓練ではなく実際に人を救助したのは初めての事で、本人やご家族の方からお礼を言われ、自分の仕事が人の役に立つということを実感しました。

今は巡視艇に乗って違反の取締まりや書類作成といった警備業務の基本を身に付け、基礎を固めた上で潜水士など救難の道に進みたいと考えています。海上保安学校を卒業するまでは色々進みたい道はありましたが、現場に出て経験を積んでいくうちに、目指すイメージが固まったところでした。

海上保安学校の教官からは「現場は甘くないぞ」と散々言われてきましたが、現場に配属されて最初に感じたのは「ああ、皆さん優しいんだ」ということです。もちろん仕事の上では厳しいですし、怒るときは強く怒られますが、それを最後まで引かずことなく熱心に指導してくれます。また、若いからといって無理を言われることもなく、「一人の海上保安官として扱ってくれている」とも実感しています。

船に乗ったらプライベートもほとんどありませんが、警察にも消防にもできない仕事が海上保安庁にはあります。海上保安学校は12人一部屋の生活で、毎日分刻みのスケジュールでかなり厳しい面もありますが、現場にはやりがいがあります。なりたいたと思ったらしっかり目標を定めて勉強するなり体力をつけるなりして目標に向けて頑張りたいと思います。



「航空通信士をめざします」

交通課 中津 由希奈 (21歳)

私が高校2年生の時、東日本大震災が発生しました。ちょうど大学に行くか、あるいは何か違う道に進むか悩んでいた時期でしたが、そんな時に進路指導の先生に紹介されたのが海上保安庁でした。特に惹かれたのが航空通信士という仕事です。船からの救助ができない時にヘリコプターで上空から救助する。女性ではなかなか降下員になるのは難しい面もあるかもしれませんが、一緒にヘリコプターに乗って現場に赴き、救助に携わることではできると思いました。

交通課の業務は多岐にわたります。大きくは海上での工事や花火などのイベントが安全に実施されるために申請を確認するなどの航行安全業務、灯台の保守などの航行援助業務、マリナーや漁港に向いて情報を集めたりする海難防止活動です。

灯台の保守では灯台がきちんと機能しているかを確認するのは当然ですが、周囲の樹木が伸びて光りを遮っていないかなど灯台を利用される船舶の視線に立って気を配ります。また、定期的な点検し、問題が発生しないよう、測定した数値に異常な動きがないか、前回の値と比べて高すぎたり低すぎたりしないかなど確認し、自分の知識だけで判断できないことは上司に確認してトラブルを未然に防

いでいます。

最初は海上保安庁の職員として船やヘリコプターに乗って救助現場に出たいという気持ちが強くありましたが、陸上の仕事に慣れないと感じることもありました。

でもイベントの来客者に灯台の説明をした時に、私の説明に耳を傾けてくれ、「灯台にそんな役割があったんですね。それを海上保安庁さんが管理してくれているんですね」と言ってくれた時に、とても嬉しかったです。灯台の仕事は夏場は暑いし、荒れた道を歩く時には嫌だなと思う時もあります。でも、灯台の上から見える景色って結構、いえ、とても好きなんです。これは船に乗っていたら見られなかった景色だと思います。

航空通信士の仕事についても、去年、航空基地に行く機会があり職員の方から直接に業務の説明をしていただきました。また海上保安学校時代の教官に連絡を取ってアドバイスをいただいたりもしています。なかなか忙しくて勉強が進んでいない面はありますが、目標に向かって毎日を過ごしています。





尾道 エトセトラ

特集では伝えきれなかった尾道をここで

しまなみ海道



「瀬戸内しまなみ海道」は本州側の広島県尾道市と四国側の愛媛県今治市を、全長約60kmで結ぶ架橋ルートです。その区間には大きな島が7つあり、それぞれに形の異なった架橋で結ばれていることから「橋の美術館」とも呼ばれています。しまなみ海道の最大の特徴は、徒歩や自転車でも渡ることができること。特にCNNが選ぶ「世界で最も素晴らしい7大サイクリングコース」にも選ばれており、その人気は世界中からサイクリストが集まってくるほど！ 美しい海と島々を巡る、まさに自転車乗りの楽園とも言えるサイクリングロードです。



秋から冬にかけては豊かに実るかんきつ類がサイクリングコースを彩ります。

千光寺公園



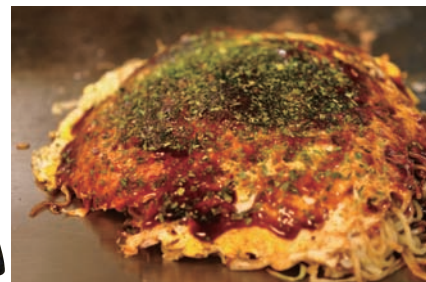
尾道の街を見守るように、標高144メートルの千光寺山に広がる千光寺公園。市街地からロープウェイでもアクセスできます。春には桜やつつじが咲き誇り、秋には『尾道菊花展』が開催されます。公園からは尾道水道や対岸の向島、その先の島々を見渡すことができ、また美しい夜景も楽しむことができます。



おのみち住吉花火まつり

江戸時代中期から続く、尾道市を代表する花火大会です。今年は7月30日に開催され、1万3000発もの花火が打ち上げられました。この花火大会は神事として行われており、3隻の提灯船や神輿が尾道水道を渡御します。

● 尾道グルメ!



尾道と言えば尾道ラーメン。鶏といりこでダシをとった醤油ベースのスープに豚の背油を浮かべているのが特徴です。歯ごたえの良い砂ずりと揚げいかたが入った尾道焼きは、大阪や広島のお好み焼きとは一味違う味が楽しめます。スイーツでは地元で採れるはっさくを使ったはっさく大福が人気。はっさくの酸味と瑞々しさが魅力の一品です。

● 因島水軍城



因島は、中世に活躍した村上水軍の拠点のひとつでした。日本で唯一の水軍城型資料館には、村上水軍の兵法書や甲冑類などが展示されています。左の本丸が水軍資料館、右の隅櫓は展望台になっています。また、「島まつり」「火まつり」「海まつり」が行われる因島水軍まつりでは、甲冑を着た武者たちが因島水軍城から出陣する勇壮な姿や花火を楽しむことができます。



● ベッチャー祭り



毎年11月1、2、3日に行われる尾道ベッチャー祭りは、尾道市民俗文化財に指定されている奇祭。最終日には「ベタ」、「ショーキー」、「ソバ」の面を付けた氏子と獅子が、神輿とともに市の中心街を練り歩き、子どもを追い回して「ささら」や「祝棒」で頭を叩いたり体を突いたりします。「ささら」で叩かれると頭が良くなり、「祝棒」で突かれると子宝に恵まれ、また1年間の無病息災が約束されると言われています。



尾道七佛めぐり

持光寺、天寧寺、千光寺、大山寺、西國寺、浄土寺、海龍寺。尾道市内中心にある7つの古寺を巡りながら朱印を集める尾道七佛めぐり。すべてのお寺の朱印を集めたら、最後のお寺で朱印長に「満願成就」の印を押ししてもらいましょう。





第五管区

徳島海上保安部
**自作タンボールボートで奮闘！
落水で自己救命策を実演。**

7月23日



第一管区

一本部
**北海道初！警察、消防、自衛隊、
海保による4機関合同夏フェスタ**

8月20日

北海道を守る、女性職員たち



第六管区

六本部
**マツダスタジアムで
海上保安庁PR**

7月20日



第二管区

二部、海海上保安部
**地元ミヤギテレビ生出演！
海難防止と自己救命策の推進**

7月15日



第八管区

八本部
**「みなと舞鶴ちゃった祭り」に参加！
学生募集**

7月30日



第三管区

三本部
**海上保安資料館横浜館入館者数
「280万人」突破！**

7月30日



第十管区

十本部
**対イベント用秘密兵器
「缶バッジ製造機」投入！**

7月18日



第四管区

海海上保安部 四部
**海上保安庁音楽隊コンサートin蒲郡
(海フェスタ東三河)で118番PR**

7月30日



本庁
子ども霞ヶ関デー

7月27・28日



石垣航空基地
石垣市消防本部水難救助隊と
合同潜水訓練

8月19日



海上保安学校

7月19・20日



遠泳訓練実施

海上保安大学校

7月20日

主計士

船の料理人

八角や紹興酒を使った本格的な「牛バラシチュー」は乗組員からも大好評



巡視船艇には主に庶務や物品管理、調理等を担当する、「主計士」と呼ばれる海上保安官が乗り組んでいます。

主計士とは、庶務や物品管理、そして船艇で乗組員の食事、「船飯」の調理を担う主計科の職員です。海が荒れる中、大きく揺れる船内でも料理を作り上げる主計士は、まさに「船の料理人」といい存在です。長い航海では乗組員の体調を整える上でも「船飯」は重要です。そのため主計士には料理のレパートリーの多さも求められます。もちろん料理の味もとても重要。腕の良い主計士は全国でも有名で、異動時期には有名主計士の配属先について乗組員たちの話題になるほどです。



前巡視船「ふどう」主計士補
庭村 翠

私たち主計士が作った船飯レシピが、海上保安庁HPや各メディアなどでも取り上げられレシピ本も出ています。海上保安庁の美味しい船飯、是非ご家庭でも楽しんでいただけたらうれしいです。



レシピ本

海上保安庁 おいしい 船飯

検索

INFORMATION

危険！ながらスマホ

防波堤を歩きながらのPokémon GOの利用など
「ながらスマホ」は防波堤や海上においても**大変危険**です。
スマートホン等の操作時は、一旦立ち止まり又は停船し周囲の状況を確認しましょう。

船舶の衝突・乗揚



船舶操船時のスマートホン等の操作は、
**見張りが疎かになり、
衝突・乗揚の危険性が高まります。**

最近の事故事例

プレジャーボートの船長が操船中に携帯電話を操作していたため、見張りが疎かとなり、灯浮標に衝突。乗員2名が海に投げ出され、うち1名が亡くなる事故が発生しています。



防波堤からの海中転落



防波堤や岸壁を歩行中の
スマートホン等の操作は、足場が悪く、
狭い場所も多いため、
海中転落の危険性が高まります。

最近の事故事例

岸壁においてPokémon GOを利用中、
誤って海中転落し、負傷する事故が発生しています。

ルールを守り、海上での事故に注意しましょう！

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD